

◇学長表彰に係る学生の学業並びに研究活動等の功績

【大阪公立大学】

氏名	学部・研究科 学類・専攻 課程・分野	推薦理由・成績（功績の内容）	その他参考事項
ひがしむら りく 東村 理功	情報学研究科	学会名：FIT2022（第21回情報科学技術フォーラム） 表彰名：「FIT ヤングリサーチアワード」 論文タイトル：モバイル学習者の読書行動に基づく未知単語推定 共著者：東村 理功、パゴアンドリュウ、岩田 基、黄瀬 浩一 表彰日：次年度（2023年度中） 表彰者：未定 被推薦者は、 知能メディア処理研究室（指導教員：岩田 基）に所属し、教育工学に関する研究を行い、上記のとおり2022年9月13日～15日に慶應義塾大学矢上キャンパスでハイブリッド開催された「FIT2022（第21回情報科学技術フォーラム）」において、「FIT ヤングリサーチアワード」を受賞した。FIT ヤングリサーチアワードは33歳未満の若手研究者による発表から、FITの全論文数（2022年は558件）の1.5%を上限として選定される。今年の実賞者は558件の中から8件のみであり、その狭き門を超えて賞された。その業績は顕著であるため推薦する。	情報のエビデンスは以下のとおり 学会と賞の内容についてのサイトは以下になります。 https://www.ipsj.or.jp/award/fit-young.html 大学ホームページ上での掲載は以下になります。 https://www.omu.ac.jp/i/info/news/entry-03644.html
たなか まほ 田中 真穂	理学研究科	2022年度前期にすぐれた研究成果を挙げた田中真穂さん（理学研究科化学専攻 修士課程1年）を推薦します。分析化学の研究分野において、微量物質の分析手法の開発は重要です。田中真穂さんは、被検物質を濃縮することができる単一微小液滴を作り出すことにより、この課題に挑みました。「光ピンセット」と「温度応答性イオン液体」を上手く組み合わせ、単一イオン液体液滴の形成に成功しました。液滴中に分子や微粒子を濃縮できることを示し、微量分析のための新たなアプローチを開拓しました。これらの成果は、筆頭著者として「Chemical Communications (IF: 6.065)」や「Japanese Journal of Applied Physics (IF: 1.491)」に掲載されました。前者においては研究内容が高く評価され、Inside Front Cover に採択されました。16th International Conference on Laser Ablation (COLA2021/2022) や Conference on Lasers and Electro-Optics Pacific Rim 2022 (CLEO PR 2022) などの国際会議において英語でのポスター発表も経験しており、今後の活躍が大いに期待されます。	故郷を離れ、殆ど仕送りに頼ることもなく、経済的にも自活しながら高い研究成果を挙げている点も、極めて高く評価しております。
うえだ みつり 植田 允教	理学研究科	第61回日本地すべり学会研究発表会において、「航空レーザ測量データを用いた斜面崩壊による地形分類の変化」というタイトルでポスター発表を行い、若手優秀発表賞を受賞しました。本研究では、斜面崩壊前後の地形の変化を解析し、崩壊地とその周辺の地形の特徴を明らかにしました。この成果は、機械学習による斜面崩壊地の自動抽出などに貢献することが期待されます。 紹介記事は以下のサイトを参照してください。 https://www.omu.ac.jp/sci/geos/info/research_topics/entry-18593.html 受賞の詳細は、添付のファイルを参照してください。	
よしだ みきお 吉田 幹央	生活科学研究科	吉田幹央君は、国際学術誌Sustainability (IF=3.88) に「Housing Affordability of Private Rental Apartments According to Room Type in Osaka Prefecture」が、第一著者として掲載されたため、推薦者は学長表彰に推薦する。吉田幹央君は、入学当初より「オープンガヤ大阪」の運営に主体的に関わり、4回生時には事務局次長（サブリーダー）を務めた。その活動の中で、大阪府における民間住宅市場のアフォーダビリティが困窮しつつある社会問題に課題意識を持つようになった。アフォーダビリティとは、住宅の適正住宅費負担を意味する。大阪府では、公営賃貸住宅よりも、民間賃貸市場の長屋がアフォーダビリティの役割を担ってきた歴史がある。そして、コロナ禍により顕在化した社会問題でもあった。そこで、吉田幹央君は、国立情報学研究所の協力を得て、不動産ビッグデータ（アットホームデータセット）を用いて、大阪府の民間賃貸住宅市場における家賃分布を、住宅種類別に分析した。その結果、アフォーダビリティを担保する住宅の割合は適切であるものの、それは単身世帯を対象としたワンルームマンションが大半であったことを解明した。そして、家族世帯を対象とした賃貸住宅が極端に減少しつつある課題を解明した。それは、長屋が減少していく中で、若い世帯や困窮世帯が、適正な住宅費負担で入居できる住宅が減少しつつあることを示唆していた。この結果は、ハウジング研究として高い評価を受けて、2022年6月に、国際学術誌Sustainabilityで掲載された。	【掲載論文】 Yoshida, M.; Kato, H. Housing Affordability of Private Rental Apartments According to Room Type in Osaka Prefecture. Sustainability 2022, 14, 7433. https://doi.org/10.3390/su14127433 【学術誌IF】 IF=3.889 (2021年時点)

【大阪市立大学】

おかもと かな 岡本 花奈	生活科学部	主な受賞 ① 2022年 第三回「たかしま空き家Life Design」設計競技 優秀賞 ② 2022年 日本都市計画学会関西支部主催「震災復興のまち 神戸市新長田駅南地区 にぎわい創出ワークショップ」最優秀賞 「たかしま空き家Life Design」応募作品「365日の緑側日記-日常を異日常にそしてまた日常に-」では、滋賀県高島市の伝統的な古民家の実施設計のリノベーションに向けて地域資源や周辺環境に配慮した提案が評価された。 また「震災復興のまち 神戸市新長田駅南地区 にぎわい創出ワークショップ」では、阪神淡路大震災からの復興に向けたまちづくりに向け、他大学の学生も含めたグループのなかでチームリーダーとしての役割を担い、特に多様な専門分野から総合的な提案を行ったことが評価された。	2022年度の第三回「たかしま空き家Life Design」は、実施設計に向けた設計競技であり、エントリー数は15団体であるが、二次審査は実際のリノベーションに向けた詳細な審査があり、作品ならびに精緻な模型が高く評価された（ http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1626847873039/index.html ）。 日本都市計画学会関西支部：（ http://www.cpij-kansai.jp/contents/index.cgi ）
たかはし あゆみ 高橋 明弓	生活科学部	2022年「第1回玉善デザインコンペティション」進化する住まいかた一住まうと働くを共にする家」佳作 「第3回学生による『たかしま空き家Life Design コンペ』」優秀賞 学術研究を活かして応募した上記2つの設計デザインコンペティションにて、優秀な成績を納めた。 「第1回玉善デザインコンペティション」応募作品「セレクトランス」勝山奈央との共同作品。 「第3回学生による『たかしま空き家Life Design コンペ』」応募作品「365日の緑側日記-日常を異日常にそしてまた日常に-」学生任意グループ「大阪市立大学どんぐり」として共同。	「玉善デザインコンペティション」は、コロナ禍における住まいと働くを共にする家という課題のコンペで、主催は、株式会社玉善。応募数104作品。受賞作品紹介ページ https://www.tamazen.co.jp/blog/p051/ 「第3回学生による『たかしま空き家Life Design コンペ』」は、滋賀県高島市が実施するもので、市内の空き家を活用し、地域の活性化につながる移住体験住宅として改修デザイン案を募集するコンペである。12団体の作品提出から、5団体が1次審査を通過し、2次審査のプレゼンテーションで優秀賞を受賞した。受賞作品紹介ページ http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1626847873039/index.html

<p>こだ ゆうへい 小田 裕平</p>	<p>生活科学部</p>	<p>主な受賞作品 ①2022年 日本建築学会支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」支部入選 ②2022年 第三回「たかしま空き家Life Design」設計競技 優秀賞 日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」応募作品「一衣帯水」では、四国の早明浦ダムまで現地調査に行き、精緻な分析をふまえた提案が評価された。また「たかしま空き家Life Design」応募作品「365日の緑削り日記-日常を異日常にそしてまた日常に-」では、滋賀県高島市の伝統的な古民家の実施設計のリノベーションに向けて地域資源や周辺環境に配慮した提案が評価された。 さらに、生活科学部で実施されているQOLプログラムに学生代表として関わり、紀美野町では古民家再生を中心的な立場から取り組んだほか、オープンナガヤ大阪でも中心的な役割を果たした。</p>	<p>「日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技」は日本建築学会が毎年主催する設計競技で、今年の応募数285作品、支部入選62作品。 2022年度の第三回「たかしま空き家Life Design」は、実施設計に向けた設計競技であり、エントリー数は15団体であるが、二次審査は実際のリノベーションに向けた詳細な審査があり、作品ならびに精緻な模型が高く評価された (http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1626847873039/index.html)。</p>
<p>きたけ あかり 佐竹 亜加梨</p>	<p>生活科学部</p>	<p>主な受賞作品 ①2022年 日本建築学会支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」支部入選 ②2022年 第三回「たかしま空き家Life Design」設計競技 優秀賞 日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」応募作品「一衣帯水」では、四国の早明浦ダムまで現地調査に行き、精緻な分析をふまえた提案が評価された。 また「たかしま空き家Life Design」応募作品「365日の緑削り日記-日常を異日常にそしてまた日常に-」では、滋賀県高島市の伝統的な古民家の実施設計のリノベーションに向けて地域資源や周辺環境に配慮した提案が評価された。いずれの作品でもメインパースを手がけており、作品制作において重要な役割を果たした。 佐竹さんは、学部生の間に設計製図科目にて、複数の優秀作品賞を受賞するなど模範的な学生である。このほかオープンナガヤ大阪の開催にあたっても中心的な役割を果たしており、ガイドマップのデザインを手がけた。</p>	<p>「日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技」は日本建築学会が毎年主催する設計競技で、今年の応募数285作品、支部入選62作品。 2022年度の第三回「たかしま空き家Life Design」は、実施設計に向けた設計競技であり、エントリー数は15団体であるが、二次審査は実際のリノベーションに向けた詳細な審査があり、作品ならびに精緻な模型が高く評価された (http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1626847873039/index.html)。</p>
<p>まつむら かえで 松村 楓</p>	<p>文学研究科</p>	<p>松村楓さんは、授業科目の成績が優秀であることはもちろん、大学院入学後の2年間のうちに急速に研究能力を向上させ、着実にその成果を積み重ねてきました。特筆すべきは、2021年度日本社会心理学学会若手研究者奨励賞を受賞していることです(日本社会心理学会は、約1580名の学会規模で、2021年度同賞受賞者は7名)。 修士課程のうちに受賞していることから明確にわかるとおり、松村さんの研究テーマの斬新さとその計画の手堅さは、表彰に値するものと思われます。論文(共著)が国際誌へ掲載されていること、また学会において英語で自らの研究成果を発表しようとしている点も推薦理由に該当します。以上のことから、松村楓さんを学長表彰候補者として推薦いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度日本社会心理学学会若手研究者奨励賞を受賞(2022年3月28日) (https://www.socialpsychology.jp/award/wakate_2021_2.html) ・国際誌に論文(共著)を掲載(掲載雑誌名: Frontiers in Psychology, 掲載日2022年3月3日) (https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fpsyg.2022.795732/full) ・学会において英語で自らの研究成果(タイトル: Is meritocracy-based bias moderated by generating mechanistic explanation?) を発表(2022年9月18日) (http://jgda68th.sakura.ne.jp/pdf/20220917-18jgda68thprogram.pdf)
<p>きた ゆう 紀太 悠</p>	<p>理学研究科</p>	<p>【学術研究】 日本化学会秋季事業 第12回 CSJ化学フェスタ2022(2022年10月18日(火)~20日(木)) タワーホール(船堀)にて「優秀ポスター発表賞」を受賞した。 講演題目「生体/光触媒を利用した二酸化炭素のアセトン固定化による生分解性高分子モノマー合成」 合計900件の発表のうち163件の「優秀ポスター発表賞」が選出された。</p>	<p>【大会概要】 CSJ化学フェスタは公益社団法人日本化学会が主催し秋季事業として開催される。産学官の最先端研究、連携・交流深耕、企業や研究機関、学生の研究成果を発表、発信する「フェスタ企画」と社会に広く化学を発信する「公開企画(無料)」で構成されている。 【規模】 総参加者数約2,700名。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して以下の学術論文が掲載され、表紙紙にも採択されている。 Yu Kita, Ritsuko Fujii, Yutaka Amao, "Expression of biocatalysts and their use in monomer synthesis for biodegradable polymer from acetone and CO2", Sustainable Energy & Fuels 2023, 7, 360-368</p>
<p>くらうち いくや 倉内 郁哉</p>	<p>理学研究科</p>	<p>ヒト唾液中に存在するエンド-β-アセチルグルコサミナーゼ(EndoHS)は、主に哺乳動物細胞で付加されるコンプレックス型糖鎖を特異的に認識し、加水分解または糖転移反応を触媒する酵素である。EndoHSは、コンプレックス型糖鎖であれば、フコースが付加しているも、2分岐、3分岐でも作用するにもかかわらず、ハイマンノース型糖鎖には全く作用しないというユニークな機能を有し、これは本酵素に特有のドメイン構造に依存していると考えられている。令和4年度日本結晶学会年會において、「エンド-β-N-アセチルグルコサミナーゼHSにおけるドメインIVの役割」というタイトルで、EndoHSの特有のドメイン構造を明らかにし、その役割について考察したポスター発表は高く評価され、ポスター賞を受賞した。以上のことから、倉内氏を学長表彰候補者としてここに推薦いたします。</p>	<p>【大会概要】日本結晶学会は1950年に創立、現在会員数約1000名であり、毎年1回年會を開催している。年會参加者は毎年200-400名程度である。 【規模】令和4年會では、通常の口頭発表数42件、受賞講演4件、ポスター発表61件、結晶学会・学術會議合同シンポジウムの講演3件の発表が行われた。学生のポスター賞は応募者数24件に対して受賞者4名</p>
<p>いのうえ きらら 井上 喜未々</p>	<p>理学研究科</p>	<p>この2年間で井上喜未々さんは、肝細胞と肝星細胞を試料とする肝線維化病態進展の機能解析を行っています。既に、マウスの肝臓から実質細胞である肝細胞および非実質細胞である肝星細胞、肝臓洞内皮細胞およびKupffer細胞を純度よく精製する方法を習得し、さらに、肝細胞から肝細胞膜を低浸透圧-密度勾配法で採取する方法を確立しました。彼女は、この肝細胞膜を用いた独自の培養システムにより、肝線維化の責任細胞である肝星細胞の活性化を抑制することを可能にしました。この研究成果を国際会議(Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL) Single Topic Conference 2021,大阪)及び、国内学術集會(第28回肝細胞研究会、第29回肝細胞研究会、第29回日本門脈圧亢進症学会総会、第45回日本分子生物学会年會、第36回肝臓洞壁細胞研究会学術集會)で発表し、4つの賞を受賞しました。また、この研究は公益財団法人大阪難病研究財団2022年度(第28回)医学研究助成にも採択されました。また、この研究内容を日本門脈圧亢進症学会雑誌(Japanese Journal of Portal Hypertension)に投稿しました(査読中)。 井上喜未々さんは、主体性と探究心を持ち合わせており、一人で何時間も蛍光顕微鏡の前でデータ収集を行うこともしばしばあります。実験に関わる手技は学部生時代に各研究室を回り習得してきたため、大学院に入学してすぐに再現性のある信頼性の高いデータを出してくれました。失敗を恐れず、好奇心旺盛で、彼女の結果から私たちが学ぶことも多くあります。疑問や問題があれば放置したり一人で解決したりせず、論文を調べた上での確かな質問をすることが出来ます。協調性があり他のスタッフや学生からも慕われ、実験を頼まれることも多く今後さらに共同研究が広がっていくと思います。向上心があり、様々な意見を自身の実験結果から理解し先入観に囚われない解釈ができることが彼女の魅力であり研究者としての強みであると考えます。 今後、井上さんが研究者として更に成長してくれると期待し、ここに強く推薦致します。ご高配を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。</p>	<p>国際会議における発表 (ポスター発表・査読有) Kirara Inoue, Misako Sato-Matsubara, Truong Huu Hoang, Tsutomu Matsubara, Hayato Urashima, Atsuko Daikoku, Kazuo Ikeda, Katsutoshi Yoshizato, Norifumi Kawada, "Cell membrane-mediated direct crosstalks between hepatocytes and HSCs," Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL) Single Topic Conference 2021, Osaka, Hilton Osaka, September 2021 国内学会・研究会における発表 (口頭発表・査読有) 井上喜未々、松原三佐子、Truong Huu Hoang、松原勲、宇留島隼人、湯浅秀人、大黒敦子、池田一雄、吉里勝利、河田則文、『肝細胞と肝星細胞との細胞膜を介した細胞間クロストーク』、第28回肝細胞研究会、Hybrid meeting、Onsite presentation、淡路夢舞台、2021年9月 (口頭発表・査読有) 井上喜未々、松原三佐子、松原勲、宇留島隼人、湯浅秀人、大黒敦子、池田一雄、吉里勝利、鈴木孝幸、河田則文、『肝細胞の肝星細胞活性化抑制作用における肝細胞膜の重要性』、第29回肝細胞研究会、KFC Hall&Rooms、2022年8月 (口頭発表・査読有) 井上喜未々、松原三佐子、松原勲、宇留島隼人、湯浅秀人、大黒敦子、池田一雄、吉里勝利、河田則文、『肝細胞膜による肝星細胞の脱活性化機構の解明』、第29回日本門脈圧亢進症学会総会、グランキューブ大阪、2022年9月 (ポスター発表・査読有) 井上喜未々、松原三佐子、松原勲、宇留島隼人、湯浅秀人、大黒敦子、池田一雄、吉里勝利、鈴木孝幸、河田則文、『肝細胞と肝星細胞との細胞膜を介した直接的なクロストーク』『Membrane-to-membrane direct crosstalk between Hepatocytes and HSCs』、第45回日本分子生物学会年會、幕張メッセ、2022年11月 (口頭発表・査読有) 井上喜未々、松原三佐子、松原勲、宇留島隼人、湯浅秀人、大黒敦子、池田一雄、吉里勝利、鈴木孝幸、河田則文、『肝細胞膜による肝星細胞活性化抑制作用』第36回肝臓洞壁細胞研究会学術集會、奈良ホテル、2022年12月 優秀発表賞、第28回肝細胞研究会、2021年9月 優秀演題賞、第29回肝細胞研究会、2022年8月 若手奨励賞、第29回日本門脈圧亢進症学会総会、2022年9月 優秀研究奨励賞、第36回肝臓洞壁細胞研究会、2022年12月 外部研究費の獲得 公益財団法人大阪難病研究財団2022年度(第28回)医学研究助成 100万 査読付原稿論文(投稿済、受理前) 日本門脈圧亢進症学会雑誌(Japanese Journal of Portal Hypertension) (論文題名) 『肝細胞膜による肝星細胞活性化抑制の分子機構』 Molecular effect of hepatocyte membranes on the attenuation of hepatic stellate cell activation. (著者名) 井上喜未々、河田則文</p>

<p>ひろおか しほ 廣岡 志穂</p>	<p>工学研究科</p>	<p>被推薦者である廣岡志穂君は、2022年度 日本建築学会大会学術講演会において「寒冷地と温暖地における吸放湿材貼付による省エネルギー効果と冷房設定温度の関係」と題した研究発表を行い、その内容が高く評価され、環境工学委員会若手優秀発表賞を受賞した。日本建築学会は被推薦者が所属する建築分野において最も権威ある学会であり、会員数約35,000名という規模は工学系においても極めて上位であるため、本賞受賞は本学の名誉の向上に資するところ大である。 上記の功績が、学長表彰に関する要綱における「(1) 国際的または国内著名な学会発表や学術誌論文掲載等での優れた功績」に該当すると判断し、ここに推薦するものである。</p>	<p>全国大会ではないが空気調和衛生工学会近畿支部研究発表会においても、「冷房設定温度が吸放湿材貼付による省エネルギー効果に及ぼす影響」と題した研究発表により、廣岡志穂君は2022年支部研究発表会奨励賞の受賞者3名に選出された。本学会は空調設備分野の最大規模の学会であり、学術関係者よりも空調設備業者が多く所属する特徴がある。 さらに、2022年7月15日にはアジア太平洋トレードセンター (ATC) にて受賞式と受賞者の成果報告会が開催された。当日はオンライン開催であり、多くの参加者を通じて本学の知名度向上に大きく貢献したものと云える。</p>
<p>みなみ ともゆき 皆見 智之</p>	<p>工学研究科</p>	<p>2022年8月18日～19日に北京で開催された第13回アジア照明学会 (ALC2022) において口頭発表をおこない、BEST PAPER AWARDとして表彰された。 アジア照明学会は中国、日本、韓国を中心としてアジア全域から参加者を集める照明工学と照明デザインに関する国際的な学会であり、第13回はテーマ“Healthy Lighting, Healthy Living”に対して182件の発表が行われた。 皆見氏は'Relation between Gait Type and Response to Light by Elderly People during Walking'と題して高齢者の歩容と歩行時の注視点の関係について発表を行い、高齢者のQOLに重大な影響を及ぼす転倒事故を防止するための照明環境について知見を提供して評価された。</p>	<p>学会は北京で開催され、コロナ感染防止のため日本からはオンライン参加であった。日本人の受賞者は2名であった。</p>
<p>よしだ ゆうや 吉田 優矢</p>	<p>医学研究科</p>	<p>吉田優矢君はもともと学部生時代に遺伝情報のビッグデータを使った解析の経験がありましたが、本学医科学修士課程に入学後は個体老化のメカニズムに興味を持ち、老化を制御する遺伝子について、データベースを利用して様々な哺乳動物の比較生物学的解析と遺伝学的解析を組み合わせた研究を行いました。その結果、これまでの通説概念と異なり、加齢に伴い発現変化する多くの遺伝子は、加齢性病態を引き起こすのではなく、むしろ長寿につながるという、驚きの結果となり、加齢で発現変化する遺伝子による加齢性疾患や個体老化に対する抵抗性と、その有益性を明らかにすることができました。吉田君を co-first author として、本成果を論文化し、現在 Nature Communications に投稿中です。この成果を NGS EXPO 2022 という学会に演題登録したところ、ポスター演題 65 演題の中から 6 演題の口頭発表に選ばれ、本研究の手法と新規性が高く評価されました。また、吉田君は修士課程の2年間の間に、共著論文 1 報、英文総説 2 報を publish し、上記を含めた投稿中の論文も 2 報あります。現在、さらに吉田君は細胞内小器官に着目した老化マウスの加齢性変化のメカニズムの解明に取り組み、この研究は投稿準備中です。このように、吉田君は現代の科学に必須であるバイオインフォマティクス解析とウエットな実験を、両方高度にこなせる貴重な研究者として育ちつつあります。 以上、吉田優矢君は医科学修士課程で十分な業績を挙げることができ、将来も非常に有望な研究者であることから、学長表彰に値すると考え、ここに強く推薦いたします。</p>	<p>[原著論文] 1. Yongsu Choi, Masaki Takasugi, Kazuaki Takemura, Yuya Yoshida, Tomonori Kamiya, Jun Adachi, Daisuke Tsuruta, Naoko Ohtani Characterization of Transcriptomic and Proteomic Changes in the Skin after Chronic Fluocinonolone Acetonide Treatment. Biomolecules 12, 1822 (2022) 投稿中の原著論文 1.Masaki Takasugi#, Yuya Yoshida#, Yoshiki Nonaka#, Naoko Ohtani Gene expressions associated with species maximum lifespan, aging, and inflammaging exhibit similarity and are linked to longer lifespan. submitted to Nature Communications #co-first 2.Masaki Takasugi, Naoko Ohtani, Kazuaki Takemura, Stephan Emmrich, Frances Zalusilo, Yuya Yoshida, Nobuyuki Kutsukake, John N. Mariani, Martha S. Windrem, Devin Chandler-Millitello, Steven A. Goldman, Junko Satoh, Shinji Ito, Andrei Seluanov, Vera Gorbunova CD44 correlates with longevity and enhances basal ATF6 activity and ER stress resistance. submitted to Cell Reports [英文総説] 1.Masaki Takasugi, Yuya Yoshida, Eiji Hara, Naoko Ohtani The role of cellular senescence and SASP in tumour microenvironment. The FEBS Journal (2022) 2.Masaki Takasugi, Yuya Yoshida, Naoko Ohtani Cellular senescence and the tumour microenvironment. Molecular oncology 16, 3333-3351(2022) 学会発表 [口頭発表] 1.○吉田優矢、高杉征樹、野中允幾、大谷直子:「比較生物学的アプローチから示される加齢にともなう遺伝子発現変化とその生体における有益性」NGS EXPO 2022、大阪、2022 年 (ポスター発表65演題から、優れた演題6演題が口頭発表に選ばれた) [ポスター発表] 1.○吉田優矢、高杉征樹、野中允幾、大谷直子:「比較生物学的アプローチから示される加齢にともなう遺伝子発現変化とその生体における有益性」NGS EXPO 2022、大阪、2022 年 2.○吉田優矢、高杉征樹、野中允幾、大谷直子:「加齢にともなう遺伝子発現変化は長寿の指標として有益なものである: 比較生物学的アプローチより」第 45 回日本分子生物学会年会、千葉、2022 年</p>
<p>ちえ よんす 崔 英壽</p>	<p>医学研究科</p>	<p>当学生は当教室で学位論文以外にも複数の研究テーマについて取り組んできただけでなく、医師としての視点でも医学の発展に寄与する研究に取り組み、自らのクリニカルケースションについて答える形で研究を進め、ステロイド外用の皮膚萎縮について新しい知見を発表することができた。その成果がimpact factor 6.064のBiomoleculesに掲載された。このような医学や臨床実践に対する探究心・成果は高く評価される。</p>	<p>Biomolecules第12巻12号 1822 https://doi.org/10.3390/bi0m12121822 (2022年12月) Characterization Of Transcriptomic and Proteomic Changes in the Skin after Chronic Fluocinonolone Acetonide Treatment 崔英壽、高杉征樹、武村和明、吉田優矢、神谷知、足立淳、鶴田大輔、大谷直子</p>
<p>なかはま けんじ 中瀬 賢治</p>	<p>医学研究科</p>	<p>中瀬賢治君は、私が指導を務めている大阪公立大学呼吸器内科学の大学院 4 年生として在籍しております。彼は多くの時間を肺癌の研究に注ぎ、数々の学会発表や論文発表等の成果を残しました。今年度 3 本の英文論文を出版し、現在 2 本の英文論文を投稿中です。2022 年の肺癌学会関西支部会では優秀演題賞も受賞しております。私が指導した生徒の中でも特に熱心で、優秀な学生で今回の学長表彰候補者にふさわしいと考え、ここに推薦致します。</p>	<p><2022 年度筆頭著者論文> ・ SP142 evaluation contributes to the prediction of immune checkpoint inhibitor efficacy in non-small cell lung cancer with high PD-L1 expression assessed by 22C3 (Transl Lung Cancer Res. 2022 Dec;11(12):2438-2451.) ・ Vascular endothelial growth factor receptor 2 expression and immunotherapy efficacy in non-small cell lung cancer (Cancer Sci.2022.Sep;113(9):3148-3160.) ・ Association of thyroid transcription factor-1 with the efficacy of immune-checkpoint inhibitors in patients with advanced lung adenocarcinoma (Thorax Cancer.2022 Aug;13(16):2309-2317.) ・ Vimentin expression correlates with immune-checkpoint inhibitor efficacy in non-small cell lung cancer (Cancer、投稿中) ・ The Influence of Smoking History on the Effectiveness of ImmuneCheckpoint Inhibitor Therapy: An Analysis of Real-World Data (Acta Oncologica、投稿中) <学会発表> ・ 2022 年 6 月 25 日 第 116 回肺癌学会関西支部会 口頭発表 (優秀演題賞受賞) ・ 2022 年 10 月 26 日 IASLC 2022 Asia Conference on Lung Cancer ポスター発表 (PP01.04) ・ 2022 年 12 月 8 日 第 6 回国際がん研究シンポジウム e-Poster 掲載</p>

さきやま あらた 榮山 新	医学研究科	申請者は修士課程以降、当教室において抗酸菌の新規耐性機構の解明および Acinetobacter 属細菌の分子疫学を主な研究課題として熱心に取り組んでおります。 今年度は、岡山で開催された第6回抗酸菌研究会で発表した「Mycobacterium smegmatis が産生するイソニアジド分解酵素の同定と役割の検討」という演題で、「抗酸菌研究会奨励賞」を受賞いたしました。本学会は、参加者50名の研究会ではありますが、抗酸菌研究を牽引する研究者が多く参加している研究会です。尚、第6回大会では19人の演者が発表し、内4名が受賞対象でした。 以上のように、申請者は研究発表を精力的に行ってきた結果「抗酸菌研究会奨励賞」という特筆すべき成果を挙げるにいたしました。従って、申請者が学長表彰に相当すると考え、推薦いたします。	
いしかわ せいりゅう 石川 清琉	生活科学研究科	原著論文: Seiryu Ishikawa, Chiharu Iida, Yuka Takezawa, Kyoko Chiba, Eriko Kage-Nakadai, Avoidance behavior and experience-dependent tolerance in response to bitter compounds in Caenorhabditis elegans, Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 2022, zbac200 (第一著者) 国際学会発表: Seiryu Ishikawa, Yuka Takezawa, Chiharu Iida, Yuko Yamada, Mohammad Shaokat Ali, Simo Sun, Eriko Kage-Nakadai Plasticity in taste preference to bitterness and astringency requires DAF-16/FOXO in the AIY interneurons in Caenorhabditis elegans, 22th International Congress of Nutrition, December 6-11, 2022, Tokyo (発表者)	原著論文1編 (第1著者としての国際学術雑誌への掲載)、国際学会発表1件、という前期博士課程在籍としては極めて優れた研究業績を挙げた。また対象期間外ではあるが、前期博士課程1年次には令和3年度日本栄養・食糧学会 トピックス賞受賞を受賞するなど、卓越した学術研究活動を行った。
らい しょうかん 雷 殊寛	生活科学研究科	主な受賞 ①2022年 大阪公立大学留学生日本語弁論大会 銅賞 「異文化交流の魅力」 ②2022年 第10回大東建託賃貸住宅コンペ「アイデア提案部門」3位 2名で作成 大東建託賃貸住宅コンペは、学生だけでなくプロの建築家も参加するハイレベルな設計競技であり、応募作品「まちの拠点となる新たな街区モデルの提案」は、全国165作品が応募するなか、一次審査上位5点に選出され、東京で開催された最終審査会で3位を勝ち取った(賞金100万円)。修士2年間、東北NTのまちづくりに関わっており、その調査の成果をふまえて設計したことが評価された。 また雷さんは、設計競技において受賞作品以外にも複数の高いレベルの作品を作成しているほか、大阪公立大学留学生日本語弁論大会で銅賞を受賞し、第六回二大留学生日本語スピーチコンテストにも出場した。	第10回大東建託賃貸住宅コンペ「アイデア提案部門」(https://kentaku.shinkenchiiku.net/news/news-2794/) 応募総数165点
もり ふるか 森 風香	生活科学研究科	主な受賞 ①2022年 日本建築学会支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」支部入選 ②2022年 照明学会関西支部「学生照明デザイン競技」優秀賞 日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」応募作品「一衣帯水」では、四国の早明浦ダムまで現地調査に行き、精緻な分析をふまえた提案が評価された。 また照明学会関西支部「学生照明デザイン競技」では、持続可能な日常生活のために未来へつなぐあかりの提案というテーマであり、古民家の廃材を利用した「焚火灯」の提案を行っている。木材を削ることで柔らかい形態とそこから生み出される光の透過性というデザイン性の高さと、SDGsに該当する有用な提案だったことが評価され、上位三作品として優秀賞に選ばれた。	「日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技」は日本建築学会が毎年主催する設計競技で、今年の応募数285作品、支部入選62作品。 2022年度照明学会関西支部 学生照明デザイン競技では、応募作品54件の内、優秀賞3点であり、上位3作品の内1つに選ばれた。
しょう しょう 焦 志超	生活科学研究科	1. 2022年12月11日、関わっている研究分野でのトップジャーナル"Energy and Buildings"に採択が決定、同月15日付けで、オンライン公開となっている。 2. 2022年12月26日、2023年度採用分の日本学術振興会特別研究員(特別研究員-DC2)に採用内定、採用期間は2023年4月1日から2025年3月31日まで。 3. 現在、博士課程2年段階で研究業績は下記に示すとおり、英文ジャーナル論文3本と国際会議口頭発表1本、国内口頭発表7本と、学位取得に十分な成果を残している。 4. 最終学年でも研究成果を論文投稿する予定で、研究心にあふれる学徒であり、また研究室修士課程学生への学習・生活面でのよき助言者としても貢献している。加えて、同研究科内(食品栄養学コース;早見先生)博士課程学生の学振応募への助言も行っている。	英文ジャーナル"Energy and Buildings"の位置づけ(LFなど)を示す資料を添付する。また、これまで採択された英文論文および国際会議発表リスト、学振採用内定証を添付する。

【大阪府立大学】

はなむら たくみ 花村 拓海	現代システム科学域	在学中に、令和4年度公認会計士試験論文式試験に合格	
まつおか りょう 松岡 諒	工学域	被推薦者は下記の学会にて優秀発表賞を受賞し、優れた評価を受け、本学の名誉を高めたので推薦する。 学会名：軽金属溶接協会2022年度年次講演大会研究成果発表会 発表題目：逆解析を用いた熱伝導パラメータ推定手法の開発 功績概要：口頭発表において、優秀発表賞を受賞 日時：2022年11月29日～30日	応募者数: 15名 受賞者数: 4名 受賞時: 学部4回生
なかえ さとし 中江 聡志	工学研究科	[学術研究] 日本鉄鋼協会第183回春季講演大会(2022/3/15-17, オンライン開催)の学生ポスターセッションにおいて「優秀賞」を受賞した。 タイトル: α 鉄中のC原子とTi原子のクラスタリング	[規模] ポスター発表数: 70件 受賞者数: 最優秀賞1名, 優秀賞7名, 努力賞15名
なかむら いつき 中村 樹	工学研究科	[学術研究] 日本鉄鋼協会第184回秋季講演大会(2022/9/21-23, 福岡工業大学, 福岡県福岡市)の学生ポスターセッションにおいて「努力賞」を受賞した。 タイトル: α 鉄におけるN-Cr溶質原子クラスタ形成のキネティクスとメカニズム	[規模] ポスター発表数: 69件 受賞者数: 最優秀賞1名, 優秀賞7名, 努力賞15名

<p>いたがき さとひろ 板垣 賢広</p>	<p>工学研究科</p>	<p>第68回ポーラログラフィーおよび電気分析化学討論会にて 学生優秀発表賞（ポスター発表）を受賞 開催日：2022年11月11日 タイトル：「金ナノ粒子を用いたフレキシブル電極の開発と電気化学的応用」</p>	<p>①ポスター発表 8名/41名</p>
<p>てらさき やすひろ 寺崎 保裕</p>	<p>工学研究科</p>	<p>令和4年9月20日に開催された日本金属学会第171回秋期講演大会において、優秀ポスター賞を受賞した。 【発表題目】「高純度Al合金の局所力学特性における添加元素の影響解明」 ポスター発表件数：245件 内 優秀ポスター賞：41件 令和4年11月24日に開催された日本金属学会No.82研究会「微小領域の力学特性評価とマルチスケールモデリング」において、優秀ポスター賞を受賞した。 【発表題目】「高純度Al合金の局所変形挙動に及ぼす添加元素の影響」 学生ポスター発表件数：11件 内 学生優秀ポスター賞：3件</p>	
<p>すぎた りょうや 杉田 椋哉</p>	<p>工学研究科</p>	<p>2022年12月12～14日に東京工業大学で開催された13th International Conference on Nano-Molecular ElectronicsにおいてStudent Poster Awardを受賞したため。 (URL: https://icnme2022.org/)</p>	
<p>おかだ あつし 岡田 淳之</p>	<p>工学研究科</p>	<p>The 29th International Display Workshops (IDW'22)でのposter発表により、2022年12月にIDW'22 Outstanding Poster Paper Award Winnersに選出されたため、学長表彰に推薦いたします。IDWは日本で毎年開催されるアジア最大の映像情報ディスプレイに関する国際会議であり、国内外から800名を超える参加者が集まり、最新技術について議論する。103件のposter presentationのうち、12件が本awardに選出された。(URL: https://www.idw.or.jp/award.html)</p>	<p>受賞のエビデンスとして表彰状のコピーを添付する予定ですが、発送が2月の下旬とのことで手元に表彰状がありません。エビデンスとして“受賞の連絡メール”（こちらに2月の下旬発送の旨が記載されています）を添付いたします（上記のURLにも受賞者の一覧が掲載されております）。表彰状が届き次第、コピーを提出させていただきます。</p>
<p>うちだ きょうすけ 内田 享佑</p>	<p>工学研究科</p>	<p>電子情報通信学会 光ファイバ応用技術研究会 (OFT研究会) で発表を行い、2022年度の学生奨励賞を受賞したため。同研究会は光通信関連分野で光ファイバを応用した研究に関する研究会を年間6回開催している。当該分野の専門家に混じって発表を行い、学生として優秀な発表を行ったことが評価されて受賞したものであり、本学のプレゼンス向上にも寄与したと考えます。</p>	<p>受賞対象となった講演タイトル「ファイバ特性を用いたルートナイクストパルス発生法におけるファイバ損失依存性」(8月研究会)</p>
<p>おかむら たくみ 岡村 拓海</p>	<p>工学研究科</p>	<p>The 7th International Conference on the Characterization and Control on Interfaces for High Quality Advanced Materials (2022/11/15 - 18)において、KONA Young Researcher Awardを受賞した。</p>	<p>The 7th International Conference on the Characterization and Control on Interfaces for High Quality Advanced Materialsにおいて、粉体工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「Effects of charged nanoparticles and weak electric field on nanoparticle translocation across cell membranes」 のポスター発表を行い、KONA Young Researcher Awardを受賞した。 ポスター発表者：69名 KONA Young Researcher Award受賞者：15名</p>
<p>いわお もとし 巖 元志</p>	<p>工学研究科</p>	<p>化学工学会第53回秋季大会 (2022/9/14-16)において、優秀ポスター賞を受賞した。</p>	<p>公益社団法人化学工学会が主催する研究発表会において、化学工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「全固体リチウム硫黄電池用の連続式硫黄/導電剤複合化プロセス」 のポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞した。 ポスター発表者：25名 優秀ポスター賞受賞者：2名</p>
<p>いまよし ゆうすけ 今吉 優輔</p>	<p>工学研究科</p>	<p>第39回製剤と粒子設計シンポジウム(2022/10/29-30)において、奨励賞を受賞した。</p>	<p>(一社)粉体工学会が主催する研究発表会において、製剤および粒子設計に関する講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「実生産打錠プロセスにおけるCapping発生予測手法の開発」 の口頭発表を行い、奨励賞を受賞した。 口頭発表者：15名 優秀賞受賞者：1名</p>
<p>あだち そうた 足立 壮太</p>	<p>工学研究科</p>	<p>第40回電気設備学会全国大会にて 電気設備学会全国大会優秀発表賞を受賞 題目：多目的最適手法を用いた蓄電システム併設型太陽光発電所の最適設備容量決定に関する一検討</p>	<p>開催期間：2022/9/1～2022/9/2 開催場所：関西大学 千里山キャンパス 講演人数：170人程度 受賞人数：28人</p>

<p>つのかわ なおひろ 角川 直広</p>	<p>工学研究科</p>	<p>令和4年 電気学会電力・エネルギー部門大会 優秀論文発表賞 受賞</p> <p>タイトル： 「深層強化学習を用いたオフグリッド周波数制御手法」</p>	<p>【大会概要】 産官学を問わず、電力・エネルギー技術に関する研究成果を発表する電気学会の全国大会 【開催期間】：2022/9/7～2022/9/9 【開催場所】：福井大学 文京キャンパス</p> <p>【規模】参加者1012名 口頭発表数：327名 受賞者数：6名</p>
<p>こ よとう 胡 蒼騰 (Hu Yuteng)</p>	<p>工学研究科</p>	<p>大学の博士前期2年生の胡 蒼騰君は、2022年10月12-14日、新潟県朱鷺メッセにて開催されたThe 2022 Asia-Pacific International Symposium on Aerospace Technology (航空宇宙技術のアジア太平洋国際シンポジウム、通称APISAT-2022)において、Measurement on the Discharge Plasma in the Supersonic Flowというタイトルにてプレゼンテーションを行い、Student Awardを獲得した。 この会議は、日本航空宇宙学会が主催し、豪州、韓国、中国の航空宇宙学会と共同開催であり、航空宇宙の分野では、国際的にも著名な会議であり、この会議において賞を授与されたことは、大変栄誉なことであるので、学長顕彰に推薦申し上げます。</p>	
<p>うえの かえで 上野 楓</p>	<p>工学研究科</p>	<p>上野君は、日本分析化学会 電気泳動分析研究懇話会主催第42回キャピラリー電気泳動シンポジウム(SCE2022)にて、優秀ポスター賞を受賞（総発表件数17件中2件受賞）した。当該シンポジウムは、全国規模のシンポジウムであり、上野君は、ポスター発表の中で最も優れた研究成果であると評価され、表彰されたことから学長表彰候補者として推薦する。</p>	
<p>なかじま ゆう 中島 悠佑</p>	<p>工学研究科</p>	<p>中島君は、2022年11月14～16日に開催された「化学とマイクロ・ナノシステム学会第46回研究会」にて優秀発表賞（発表題目：フォトリソグラフィを用いたDNAメチル化解析）を受賞（発表件数146件中9件表彰）した。 当該研究会は、年二回開催される全国規模の学術集会であり、各回で表彰される件数は全発表件数の5～6%程度である。中島君はこのような厳しい審査を経て優れた研究内容であると評価され表彰されたことから学長表彰に推薦する。</p>	
<p>おおの ともあき 大野 友彰</p>	<p>工学研究科</p>	<p>大野君は、2022年10月25～26日に開催された「色材協会創立95周年記念会議」にて優秀ポスター賞（発表題目：アルコキシ置換フラビリウム骨格を有する近赤外吸収クロコニン色素の開発性評価）を受賞した（発表件数41件中10件表彰）。 色材協会は創立95周年を迎える学協会であり、当該記念会議は海外からの参加者も交えて5年ごとに開催される、権威ある周年記念会議である。大野君は、厳格なる審査の上、優れた研究内容とプレゼンが評価され、表彰されたことから学長表彰に値すると考える。よって、大野君を当該表彰に強く推薦する次第である。</p>	
<p>しおたに ひでと 塩谷 秀登</p>	<p>工学研究科</p>	<p>塩谷秀登君は、令和4年度、日本航空宇宙学会 第60回飛行機シンポジウムにおいて、「IMU 及び NMEA メッセージを用いたスプーフィング検知に関する研究」というタイトルで優れた研究発表および質疑応答を行い、優秀学生講演賞を受賞した。 その他の学会や技術団体でも発表しており、本学の研究成果の広報にも貢献するなど、受賞に値すると考えられる。</p>	
<p>さかがわ しょうすけ 坂川 翔祐</p>	<p>工学研究科</p>	<p>2022/12/12～2022/12/14 にタイ・ブーケットで開催された IIAI AAI 2022-Winter Congress に参加し、2022/12/12 に口頭発表を実施した。その会議で Outstanding Paper Award を受賞した。この賞は投稿論文の中で非常に優秀とされた論文に与えられる賞であり、Best Paper Award に次いで優秀な論文 1 編のみに与えられる。当該論文は坂川君の博士前期課程における研究成果であり、対外的に評価の高い優秀な研究を修めて、国際会議で広く発表した結果その価値が認められたとして学長表彰へ推薦する。</p>	
<p>きのした たかと 木下 貴登</p>	<p>工学研究科</p>	<p>SCIS&ISIS 2022でIEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Awardを受賞したため、IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher AwardはIEEE Computational Intelligence Society Japan Chapterが主催している。本賞は、Computational Intelligence に関わる幅広い領域で着手の研究を振興する目的で、SCIS&ISISで優れた発表を行った35歳以下の若手研究者数名に授与される。</p>	
<p>なかお めぶき 中尾 芽吹</p>	<p>工学研究科</p>	<p>HIFU（高強度集束超音波）治療と呼ばれる医療技術では、最初にHIFUの焦点近傍に初生したキャビテーション気泡界面でのHIFUの後方散乱により生じる強い負圧により、連続的にキャビテーションが初生して気泡クラウドが形成されることが実験的に確認されており、気泡クラウドの崩壊を治療に有効利用することが検討されている。候補者は、こうしたHIFUによる気泡クラウド形成過程を予測するため、計算格子では捕えられない気泡核の成長を球形気泡の運動方程式で、気泡クラウドの形成を記述する巨視的な場をGhost Fluid法で予測するという独自のマルチスケール計算手法の開発に従事し、その手法を応用して、実験で観測された気泡クラウドの成長過程をシミュレートすることに成功した。その成果は、査読付き論文2本、国際会議発表3件、国内会議発表2件（候補者自身の発表のみ）としてまとめられており、今後のHIFU研究の発展に寄与するものと考えられる。以上、候補者は修士課程の2年間で、優れた研究成果をあげていることから、学生表彰候補者として推薦する。</p>	<p>論文 1. 中尾芽吹, 山内秀紀, 小笠原紀行, 高比良裕之, 集束超音波中での気泡クラウド形成に関するマルチスケールシミュレーション, 混相流, 2023, 掲載決定. 2. 田村知也, 中尾芽吹, 小笠原紀行, 高比良裕之, 気泡力学を融合した Ghost Fluid 法に基づく集束超音波中でのキャビテーション初生シミュレーション, 混相流, Vol. 36, No. 1, 95-106, 2022.</p> <p>国際会議発表 1. M. Nakao, T. Ogasawara and H. Takahira, Numerical Investigation for the Bubble Cloud Formation in HIFU with Multiscale Modeling, Proc. 13th Asian Computational Fluid Dynamics Conference (ACFD2022), Total 2 pages, 2022. 2. M. Nakao, H. Yamauchi, T. Ogasawara and H. Takahira, Multiscale Simulation of Bubble Cloud Formation by High-Intensity Focused Ultrasound Using the Ghost Fluid Method Coupled with Bubble Dynamics, 11th International Conference on Multiphase Flow (ICMF 2023), accepted. 3. H. Takahira1, M. Nakao and T. Ogasawara, Bubble Cloud Formation by the Backscattering of High Intensity Focused Ultrasound from a Bubble Interface, Proc. 1st European-American-Japanese Two-Phase Flow Group Meeting, 89-90, 2022.</p> <p>国内会議発表（候補者自身の発表のみ記載） 1. 中尾芽吹, 山内秀紀, 小笠原紀行, 高比良裕之, マルチスケールモデリングを用いた集束超音波中での気泡クラウド形成に関する数値シミュレーション, 日本混相流学会 混相流シンポジウム2022講演論文集, 全2ページ, 2022. 2. 中尾芽吹, 田村知也, 小笠原紀行, 高比良裕之, 気泡力学と Ghost Fluid法を融合した集束超音波中でのキャビテーション初生に関する数値シミュレーション, 日本流体力学会 年会2021講演論文集, 全4ページ, 2021.</p>

<p>ました りさ 真下 理彩</p>	<p>工学研究科</p>	<p>国際的に著名な学術誌に論文掲載</p> <p>【発表論文】 B. Baumgartner, R. Mashita, A. Fukatsu, K. Okada, M. Takahashi, "Guest Alignment and Defect Formation during Pore Filling in Metal-Organic Framework Films" <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i>, 61(28), e202201725 (2022) [Impact factor (IF): 15.336]</p> <p>国際学術誌<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i>はIF: 15.336を誇る非常に影響力の高い学術誌である。これは、被推薦者が3年生の時にオーストラリアから所属する研究室に6ヶ月滞在したJSPS研究者(Baumgartner博士)との共同研究を行った際の研究結果である。多孔質材料の非常に小さな穴の中に分子が入る様子やその分子の配置について、実験的に解析することは困難であり、高効率な分離・触媒多孔質材料の開発に大きな課題となっていた。そこで被推薦者は、共同研究者らと協力して汎用型の赤外分光装置に3Dプリンタで作製した装置を設計し、試料の合成、データの解析を主体的に行うことで多孔質材料に入る分子の向きや配置をリアルタイムで観測することに初めて成功した。この成果は、国際的に影響力の高い学術誌に掲載されるなど基礎科学的にも重要であるだけでなく、ハウスダストや大気汚染の原因となる有害物質の選択的な除去や優れた触媒の開発に繋がることが期待されるなど、産業的にも重要な意味を持つ。本学のHPや各種Web媒体にてプレスリリースされるなど、本学のプレゼンス向上にも貢献している成果である。</p>	<p>真下理彩は、本学の飛び級・早期卒業制度を利用して修士課程に進学しており、現在は修士課程2年生として、私の研究グループに所属している。一般的に学部4年生に行う卒業研究は、3年生後期のみで行い、実質研究期間は3年に満たない。そのような短いキャリアにも関わらず、上記した研究に限らず、短期間で同時に3つのテーマの研究を行った。そのうち、2つは論文として形になっており、もう一つのテーマに関する研究成果も近日中に投稿予定である。最終的には論文2報、5回の学会発表と多くの場所での優秀な研究功績を発表してきた。これらの成果からも被推薦者の高い研究遂行能力は明らかである。さらに、研究活動に留まらず、IRIS(I'm a Researcher In Science)に2年間所属し、女性研究者のロールモデルとして社会に貢献してきた。物質化学系での研究活動を活かし、地域の子供たちに向けた実験教室やオープンキャンパスなどにおいて、次世代を担う研究者たちに化学の魅力を伝える活動は非常に意義深のある活動であり、本学の知名度向上にも繋がる。以上のことより、大阪府立大学として最後の優秀な修士卒業生を奨励するという意味でも、本賞の受賞を強く推薦する。</p>
<p>にしかわ あやか 西川 綾花</p>	<p>生命環境科学研究科</p>	<p>西川綾花は、2022年10月23日に芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催された第27回日本フードファクター学会学術集会以「ジカルボニルストレスに対するスベルミンの細胞保護効果の解明」という演題で口頭発表し、18名中2番目の成績でYoung Investigator Awardを受賞した。本学会における受賞は、学長表彰に値する顕著な成果であり、西川綾花を学長表彰候補者として強く推薦する。</p>	
<p>にしだい ゆうじ 西台 悠二</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>令和4年11月25日に日立市で開催されたハロゲン利用ミニシンポジウム(第14回臭素化学懇話会年會)にて研究発表(発表題目: 臭素・ヨウ素錯体DIBIを用いた選択的なヘテロハロゲン化)を行った。研究内容と発表態度、共に好評で多くの参加者の関心を集め、ポスター賞を受賞した。</p>	<p>全発表33件のうち、3名が選ばれた。</p>
<p>こまへ そうめい 小前 奏明</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>候補者は、筆頭著者として査読付き国際論文誌<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i>誌、ならびに<i>Antioxidants</i>誌に学術論文を投稿し、優れた内容が認められて論文が受理・掲載刊行されており、これらの功績により本学の名誉向上に貢献したため。</p>	<p><i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i>誌、および<i>Antioxidants</i>誌は、化学や食品科学、酸化ストレスや抗酸化物質に関する優れた論文を数多く掲載している国内外で著名な学術誌であり、インパクトファクターはそれぞれ2.3, 7.8である。 また、<i>Antioxidants</i>誌に掲載された論文の内容は、本学のホームページにてプレスリリースされており、学内外を問わず広く公開されている。 論文タイトル: "2-Oxo-imidazole dipeptides in meat" (<i>Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry</i>誌); "Quantitative Determination of 2-Oxo-Imidazole-Containing Dipeptides by High-Performance Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry" (<i>Antioxidants</i>誌)</p>
<p>はまもと りょうすけ 濱元 亮佑</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>【推薦理由】第34回相変化研究会シンポジウム(PCOS2022)において、PCOS 2022 PCOS Award(優秀講演賞)を受賞したことによる。 【発表タイトル】"GST-based Bulk Thermoelectric Materials: High Thermoelectric Performance near Room Temperature" 【発表者】 Ryosuke Hamamoto, Tomohiro Oku, Atsuko Kosuga 【開催日時・場所】 2022年11月18日(金)(於: オンライン開催, virtual conference) 【受賞割合】 学生・ポスドクによる発表18件のなかから、2件にPCOS Awardが授与された。</p>	<p>【大会概要】相変化研究会シンポジウムは、第一回開催(1990年、岩手県・盛岡)から、本年で34回目を迎える歴史あるシンポジウムで、年に1回開催されている。テーマとしては、光記録や相変化メモリなど、アモルファス/結晶相転移を利用した相変化記録技術に関する議論を軸として活発な議論を行っていたが、最近では、プラズモンやフォノンエンジニアリング、また、エネルギー変換デバイスなど、次世代の相変化の科学を志向した議論についても積極的に行っている。今年は、コロナ禍であり、オンラインで開催された。 【被推薦者のその他の発表】第68回、69回応用物理学会春季学術講演会においても本成果の進捗状況を発表した。</p>
<p>かのだ まさとし 叶田 雅俊</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>叶田雅俊氏は量子生命科学会第4回大会(2022年5月26日・27日、神戸大学百年記念館六甲ホールで開催)にてBest Poster Presentation Awardを受賞した。量子生命科学会は量子論・量子力学の観点から生命現象の原理の解明と実社会への応用を目指した学会であり、日本各地からの参加者の専門は量子論をはじめとする物理学、生物学、化学など多岐にわたる(第4回大会は発表件数70件、同賞の受賞者は7名)。候補者は小型の光濃縮型バイオチップの開発と擬似ウイルスの迅速・高感度検出に成功し、「プラズモニック・ナノポウル光濃縮基板による生物学的ナノ粒子の迅速・高感度検出」のタイトルでポスター発表を行い、同賞を受賞した。本受賞は本学の名誉の向上に貢献するものであり、学長表彰に叶田氏を推薦する。</p>	<p>学長表彰2022年度前期での選出漏れの学生である。</p>
<p>もりもと けんた 森本 健太</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>第9回日本細胞外小胞学会学術集會(2022年10月24~25日、東京大学 伊藤謝恩ホール)において「奨励賞」を受賞。 ポスター発表演題: アルギニンペプチド修飾型マイクロベジクルのマクロピノサイトーシス誘導と細胞内移行促進 発表内容: 細胞分泌小胞マイクロベジクルの細胞内移行におけるマクロピノサイトーシス経路の重要性の発見と、マイクロベジクルへの機能性ペプチド修飾による薬物送達技術の展開 学生・若手研究者としての益々の飛躍と研究発展が大いに期待され、ここに推薦する。</p>	<p>上記「奨励賞」は審査対象40人中8人が受賞。 加えて特記事項として、上述学会での受賞に加え、学術論文においても、これまでに2報(全て原著論文)で貢献しており、さらなる活躍が大いに期待できる。 Hirase, S., Aoki, A., Hattori, Y., Morimoto, K., Noguchi, K., Fujii, I., Takatani-Nakase, T., Futaki, S., Kirihata, M., Nakase, I. Dodecaborate-encapsulated extracellular vesicles with modification of cell-penetrating peptides for enhancing macropinocytotic cellular uptake and biological activity in boron neutron capture therapy. <i>Mol. Pharm.</i> 19(4), 1135-1145 (2022) Noguchi, K., Obuki, M., Sumi, H., Klußmann, M., Morimoto, K., Nakai, S., Hashimoto, T., Fujiwara, D., Fujii, I., Yuba, E., Takatani-Nakase, T., Neundorff, I., Nakase, I. Macropinocytosis-inducible extracellular vesicles modified with antimicrobial protein CAP18-derived cell-penetrating peptides for efficient intracellular delivery. <i>Mol. Pharm.</i> 18(9), 3290-3301 (2021)</p>
<p>はやし こうた 林 康太</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>林康太氏は量子生命科学会第4回大会(2022年5月26日・27日、神戸大学百年記念館六甲ホールで開催)にてBest Poster Presentation Awardを受賞した。量子生命科学会は量子論・量子力学の観点から生命現象の原理の解明と実社会への応用を目指した学会であり、日本各地からの参加者の専門は量子論をはじめとする物理学、生物学、化学など多岐にわたる(第4回大会は発表件数70件、同賞の受賞者は7名)。候補者は光と流体により微小な分散質を集積する光濃縮をファイバー先端で行う技術に関する「ファイバー型モジュールによる生物物質の3次元光濃縮法の開発」のタイトルでポスター発表を行い、同賞を受賞した。本受賞は本学の名誉の向上に貢献するものであり、学長表彰に林氏を推薦する。</p>	<p>学長表彰2022年度前期での選出漏れの学生である。</p>

<p>なかに ちゆうと 中谷 勇登</p>	<p>理学系研究科</p>	<p>第59回ベプチド討論会（2022年10月26-28日、トークネットホール仙台）において「Young Presentation Award」を受賞。 口頭発表演題：A serum albumin-binding helix-loop-helix peptide tag for prolonged activity of biopharmaceuticals 発表内容：血清アルブミンに特異的に結合するヘリックス-ループ-ヘリックス（HLH）ペプチドの新規取得と、本HLHペプチドを用いたインスリン送達、及び、動物実験での血中グルコース濃度制御の成功 学生・若手研究者としての益々の飛躍と研究発展が大いに期待され、ここに推薦する。</p>	<p>上記「奨励賞」は審査対象24人中6人が受賞（全て英語でのプレゼンテーション、質疑応答）。 加えて特記事項として、上述学会での受賞に加え、学術論文（筆頭著者）を発表した。 Nakatani, Y., Ye, Z., Ishizue, Y., Higashi, T., Imai, T., Fujii, I., Michigami, M. "Human and mouse cross-reactive" albumin-binding helix-loop-helix peptide tag for prolonged bioactivity of therapeutic proteins. Mol. Pharm. 19(7), 2279-2286 (2022)</p>
<p>くにちか りき 國近 力樹</p>	<p>人間社会システム科学研究科</p>	<p>2022年10月28日～29日に福岡で開催された第31回ソノケミストリー討論会にて「超音波キャビテーションによって生成される硝酸、亜硝酸、過酸化水素の定量と評価」と題して、ポスター発表を行った。新たな分析手法を開発すると共に、キャビテーションバブルの化学作用をバブル内の高温度と高圧力の観点から考察した。研究内容及び成果の理解度、発表技法等が優秀と認められ、日本ソノケミストリー学会奨励賞を受賞した。 さらに発表内容に関して「奨励賞受賞者の解説論文」を執筆し、日本ソノケミストリー学会誌2023年3月号（Vol. 17, No. 1）に掲載されることが決まった。 國近氏の奨励賞受賞と解説論文掲載は、学長表彰候補者にふさわしいと考えられるので推薦いたします。</p>	<p>日本ソノケミストリー学会奨励賞は、年齢が受賞の年度末3月31日現在において満35歳以下の者が対象であり、2022年度は計24件の対象者から計3件が奨励賞に選ばれた。</p>
<p>ふるき ひであき 古木 秀明</p>	<p>看護学研究科</p>	<p>博士前期課程1年次より掲載された研究に取り組み、博士前期課程2年次に論文が国際学術誌に掲載された。掲載された学術誌はWorldviews on Evidence-Based Nursing (Impact Factor [2021]: 4.347) であり、看護学では5番目にImpact Factorが高い国際学術誌である。博士前期課程2年次にImpact Factorが4.347の国際学術誌に論文が掲載されたことは優れた功績であり、推薦する。 <論文情報> ・著者：Furuki Hideaki, Sonoda Nao, Morimoto Akiko. ・論文タイトル：Factors related to the knowledge and skills of evidence-based practice among nurses worldwide: A scoping review. ・雑誌名：Worldviews on Evidence-Based Nursing</p>	<p>論文を添付（本資料では割愛）</p>

◇学長表彰に係る学生の課外活動等の功績

<団体>

<p>学生FDスタッフ 木岡 智優 植田 迅 松下 昂由</p>	<p>現代システム科学域 (教育推進本部教育学修支援室)</p>	<p>「学生FDスタッフ」は、教職員との協働により大学の教育改善と学修支援を目的とした学生の自主的な団体として、2012年より活動し、これまで「レポートの書き方講習会」「課程配属相談会」「公認心理師座談会」等の企画に取り組み、大阪公立大学において継承して活動している。 2022年4月の教務システム変更に伴い、学生に必要な各種設定時に感じた彼らの課題認識から、このたび、交換留学生を対象としたOMUID取得のための英語版動画を制作し国際交流課へ提供した。本学での学習を開始する前に必ず行うOMUID取得の手続きをスムーズに行えることは大変重要であり、その実現に向けて、大学が作成する英語のガイドブックを、さらに動画化することで、外国人留学生の早期の学習環境確保に貢献した。 この動画が好評で、国際交流課から学生課へも提供し、正規留学生にも活用されている。また、動画制作のステップアップ企画として「OMUID取得、UNIPA・Moodle説明会」を留学生対象に実施し、授業関連情報の取得方法や便利な使い方を伝えるとともに、交換留学生の質問に対応し、大阪公立大学における学修環境の情報提供に寄与した。</p>	
<p>HELIOS2022 藤川 拓海 畠山 響</p>	<p>現代システム科学域 情報学研究科</p>	<p>【国際大会】 大阪公立大学と岡山理科大学の共同開発チームにて、Robo Cup Worldwide 2022 Robo Cup 2D Soccer Simulation League Soccer Competition (2022/07/11-17開催・バンコク・オンライン)に参加し、Soccer Competition及びCooperation Challengeの2部門でFirst Placeを獲得。優勝を果たしました。 【チームメンバー】 畠山 響 (情報学研究科・1年 (BGB22040)) 藤川 拓海 (現代システム科学域・4年 (1191100253)) 中島 智晴 (情報学研究科・教授) 秋山 英久 (岡山理科大学)</p>	<p>自律移動型ロボットが人工知能プログラムにより競技を行うRobo Cupの世界大会において、大阪公立大学と岡山理科大学の共同開発チームで出場。</p>

<個人>

【大阪公立大学】

<p>はたけやま きょう 畠山 響</p>	<p>情報学研究科</p>	<p>[学術研究] 大会名：Robocup Asia-pacific(RCAP)2021 Aichi Japan's Symposium 開催日：2021年11月25-29日 開催場所：愛知県国際展示場 (オンライン開催) 「ロボカップ研究賞」受賞 上記大会において発表した研究内容にて「ロボカップ研究賞」を受賞し表彰された。 タイトル：A study on the effect of team names on the team strategy 表彰日：令和4年6月4日 表彰者：表彰者特定非営利活動法人 ロボカップ日本委員会 会長 岡田浩之氏</p>	<p>【共著者】 福島 卓弥・楠木 祥文・中島 智晴・秋山 英久 【大会概要】 Robocupに関する研究成果を発表する年次研究会 【規模】 発表数：不明、受賞者数：不明</p>
<p>ひがししくち たけき 東口 岳樹</p>	<p>工学研究科</p>	<p>被推薦者は大阪公立大学の学生2名、准教授1名の計3名からなるNano-Qというチームの一員として、内閣府主催の国際宇宙ビジネスアイデアコンテストS-booster2021において、200以上のチームで行われる予選を勝ち抜き最終選抜会へ日本代表として出場した。発表したビジネスプランの中核を成すのは大阪公立大学で開発されたのち国際特許を出願中の技術である。コンテストを通じて、国内外の宇宙産業関連事業者や投資家だけでなく、政府や各省庁の関係者へ向けて大学の研究成果や起業に向けたロードマップを示し、大阪公立大学のプレゼンス向上に多大なる貢献をした。 上記の功績を鑑みて推薦に値すると判断した。</p>	<p>S-booster2021公式HP https://s-booster.jp/2021/ 発表内容YouTube https://www.youtube.com/watch?v=_tDruPhaOEc</p>

【大阪市立大学】

<p>かつやま なお 勝山 奈央</p>	<p>生活科学部</p>	<p>2022年「第1回玉善デザインコンペティション」進化する住まいかた一住まうと働くを共にする家」佳作 「第1回 近畿学生住宅大賞」企業賞 学術研究を活かして応募した上記2つの設計デザインコンペティションにて、優秀な成績を納めた。</p>	<p>「近畿学生住宅大賞」は未来の建築士である学生の住宅課題を対象にしたコンクールを建築士会が開催するもの。受賞作品紹介ページ https://www.aba-osakafu.or.jp/kinki/pastcollection/ 「玉善デザインコンペティション」は、コロナ禍における住まいと働くを共にする家という課題のコンペで、主催は、株式会社玉善。応募数104作品。受賞作品紹介ページ https://www.tamazen.co.jp/blog/p5051/</p>
<p>きたやま たかや 北山 貴也</p>	<p>生活科学研究科</p>	<p>2021年「木の家設計グランプリ」優秀賞・横内敏人賞受賞 2022年「木の家設計グランプリ」優秀賞 2022年「第1回玉善デザインコンペティション」銅賞 学術研究を活かして応募した上記3つの設計デザインコンペティションにて、優秀な成績を納めた。 2021年「木の家設計グランプリ」応募作品「キトケイハウス~木が時間を教えてくれる住宅~」渡部 泰宗との共同作品。 2022年「木の家設計グランプリ」応募作品「吊り橋の家」単独作品 「第1回玉善デザインコンペティション」応募作品「ウイズスタイルハウス」単独作品</p>	<p>「木の家設計グランプリ」は住宅建築のプロを目指す、全国の建築学生(大学院修士、学部生、高等専門学校生、専門学校生、高校生)が参加するコンペで、主催は株式会社 木の家専門店 谷口工務店。2021年は応募作品数202作品であった。 受賞作品紹介ページ http://www.dentoumirai.jp/16335644399255 (2022年は現在は速報のみ) 「玉善デザインコンペティション」は、コロナ禍における住まいと働くを共にする家という課題のコンペで、主催は、株式会社玉善。応募数104作品。 受賞作品紹介ページ https://www.tamazen.co.jp/blog/p5051/</p>
<p>わたなべ たいしゅう 渡部 泰宗</p>	<p>生活科学研究科</p>	<p>2021年「木の家設計グランプリ」優秀賞・横内敏人賞受賞 2022年「第9回 POLUS学生・建築デザインコンペティション」入選 学術研究を活かして応募した上記2つの設計デザインコンペティションにて、優秀な成績を納めた。 2021年「木の家設計グランプリ」応募作品「キトケイハウス~木が時間を教えてくれる住宅~」北山貴也との共同作品。 「第9回 POLUS学生・建築デザインコンペティション」応募作品「庭をつくり変化を楽しむ新たな暮らし方」単独作品</p>	<p>「木の家設計グランプリ」は住宅建築のプロを目指す、全国の建築学生(大学院修士、学部生、高等専門学校生、専門学校生、高校生)が参加するコンペで、主催は株式会社 木の家専門店 谷口工務店。2021年は応募作品数202作品であった。受賞作品紹介ページ http://www.dentoumirai.jp/16335644399255 「第9回 POLUS - ボラス - 学生・建築デザインコンペティション」は、大学院や大学、高等専門学校などに通う学生を対象に、建築の道を志す学生の自由で新鮮な発想(アイデア)を表現・公表する機会を設け、将来活躍が期待される学生の方々を応援するもので、ボラス株式会社が主催する。登録件数859件、応募作品数539点。受賞作品紹介ページ https://kenchiku.co.jp/polus2022/</p>

【大阪府立大学】

<p>のだ けいた 野田 蛭太</p>	<p>現代システム科学域</p>	<p>「令和3年度 ひょうごユニバーサル社会づくり賞」（県議会議長賞・企業部門）を受賞した。（7月） (https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf10/universal/shakaidukuri.html) 受賞したのはCSK株式会社 (https://csk2.net/ 参照) であるが、野田蛭太は昨年度、代表取締役社長をしており、CSKを代表して賞を受けた。また、CSKは受賞前後も継続的に活動を行っている。 なお、昨年度、野田蛭太は休学していたため、推薦者（演習Ⅰ・Ⅱの担当教員）は、本人に直接会うこともなく、連絡を取ることなかったため、前年度の推薦期間中には当該学生の活動や受賞について知りえなかったため、2021年度分としては推薦することができなかった。</p>	<p>CSKは、車いすルートマップを地域の店舗や企業に配布し、バリアフリーやSDGsについての普及・啓発活動を実施。地域の中学生に対し、車いすで地域を巡るフィールドワークや啓発を通して、福祉や社会との関わりを深める機会を提供したこと（地域みんなの車いすルートマップ普及活動）が評価され、上記の賞を受賞した。</p>
<p>はやし きみこ 林 絹子</p>	<p>工学域</p>	<p>イノベータを目指す学生のための日本最大のハックイベントJPhacks 2022 の関西地区予選大会において、およそ1週間で開発したアプリケーションの発表を行い、「株式会社SIGUMA賞」を受賞。 さらに東京の一橋講堂で行われた決勝大会に出場し、作成したアプリケーションの登壇発表をおこなった。決勝大会において、「イノベータ認定」を受賞した。</p>	<p>[規模] 出場数 全国83チーム 決勝進出チーム数16チーム イノベータ認定 受賞チーム数 上位9チーム [チームメンバー氏名（所属）（学籍番号）] 林 絹子（工学域 物質化学系学類 化学工学課程 4年）(1191202104) 笹岡 佑全（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203056) 永田 光来（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203089) 山本 航平（工学域 機械系学類 海洋システム工学課程 2年）(1211203141) 横井 秀幸（工学域 機械系学類 機械工学課程 2年）(1211203143)</p>
<p>ささおか ゆうぜん 笹岡 佑全</p>	<p>工学域</p>	<p>イノベータを目指す学生のための日本最大のハックイベントJPhacks 2022 の関西地区予選大会において、およそ1週間で開発したアプリケーションの発表を行い、「株式会社SIGUMA賞」を受賞。 さらに東京の一橋講堂で行われた決勝大会に出場し、作成したアプリケーションの登壇発表をおこなった。決勝大会において、「イノベータ認定」を受賞した。</p>	<p>[規模] 出場数 全国83チーム 決勝進出チーム数16チーム イノベータ認定 受賞チーム数 上位9チーム [チームメンバー氏名（所属）（学籍番号）] 林 絹子（工学域 物質化学系学類 化学工学課程 4年）(1191202104) 笹岡 佑全（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203056) 永田 光来（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203089) 山本 航平（工学域 機械系学類 海洋システム工学課程 2年）(1211203141) 横井 秀幸（工学域 機械系学類 機械工学課程 2年）(1211203143)</p>
<p>ながた みく 永田 光来</p>	<p>工学域</p>	<p>イノベータを目指す学生のための日本最大のハックイベントJPhacks 2022 の関西地区予選大会において、およそ1週間で開発したアプリケーションの発表を行い、「株式会社SIGUMA賞」を受賞。 さらに東京の一橋講堂で行われた決勝大会に出場し、作成したアプリケーションの登壇発表をおこなった。決勝大会において、「イノベータ認定」を受賞した。</p>	<p>[規模] 出場数 全国83チーム 決勝進出チーム数16チーム イノベータ認定 受賞チーム数 上位9チーム [チームメンバー氏名（所属）（学籍番号）] 林 絹子（工学域 物質化学系学類 化学工学課程 4年）(1191202104) 笹岡 佑全（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203056) 永田 光来（工学域 機械系学類 航空宇宙工学課程 4年）(1191203089) 山本 航平（工学域 機械系学類 海洋システム工学課程 2年）(1211203141) 横井 秀幸（工学域 機械系学類 機械工学課程 2年）(1211203143)</p>
<p>おおた ゆうじ 太田 雄士</p>	<p>工学研究科</p>	<p>被推薦者は大阪公立大学の学生2名、准教授1名の計3名からなるNano-Qというチームの代表として、内閣府主催の国際宇宙ビジネスアイデアコンテストS-booster2021において、200以上のチームで行われる予選を勝ち抜き最終選抜会へ日本代表として出場した。発表したビジネスプランの中核を成すのは大阪公立大学で開発されたのち国際特許を出願中の技術である。コンテストを通じて、国内外の宇宙産業関連事業者や投資家だけでなく、政府や各省庁の関係者へ向けて大学の研究成果や起業に向けたロードマップを示し、大阪公立大学のプレゼンス向上に多大なる貢献をした。 上記の功績を鑑みて推薦に値すると判断した。</p>	<p>S-booster2021公式HP https://s-booster.jp/2021/ 発表内容YouTube https://www.youtube.com/watch?v=_tDruPHaOEc</p>

2022年度（後期）学長表彰

【 大阪公立大学 】

所 属	学年（卒業生は在籍年次）	氏 名
情報学研究科	博士前期課程一年	東村 理功
情報学研究科	博士前期課程一年	畠山 響
理学研究科	博士前期課程一年	田中 真穂
理学研究科	博士後期課程一年	植田 允教
工学研究科	博士前期課程一年	東口 岳樹
生活科学研究科	博士前期課程一年	吉田 幹央

【 大阪市立大学 】

所 属	学年（卒業生は在籍年次）	氏 名
生活科学部	三年	岡本 花奈
生活科学部	四年	高橋 明弓
生活科学部	四年	小田 裕平
生活科学部	四年	佐竹 亜花梨
生活科学部	四年	勝山 奈央
文学研究科	前期博士課程二年	松村 楓
理学研究科	前期博士課程二年	紀太 悠
理学研究科	前期博士課程二年	倉内 郁哉
理学研究科	前期博士課程二年	井上 喜来々
工学研究科	前期博士課程二年	廣岡 志穂
工学研究科	前期博士課程二年	皆見 智之
医学研究科	修士課程二年	吉田 優矢
医学研究科	博士課程四年	崔 灵壽
医学研究科	博士課程四年	中濱 賢治
医学研究科	博士課程四年	榮山 新
生活科学研究科	前期博士課程二年	石川 清琉
生活科学研究科	前期博士課程二年	雷 姝菡
生活科学研究科	前期博士課程二年	森 風香
生活科学研究科	前期博士課程二年	北山 貴也
生活科学研究科	前期博士課程二年	渡部 泰宗
生活科学研究科	後期博士課程二年	焦 志超

【 大阪府立大学 】

所 属	学年（卒業生は在籍年次）	氏 名
現代システム科学域	三年	木岡 智優
現代システム科学域	四年	藤川 拓海
現代システム科学域	四年	花村 拓海
現代システム科学域	四年	野田 蛭太
工学域	二年	植田 迅
工学域	二年	松下 昂由
工学域	四年	林 絹子
工学域	四年	笹岡 佑全
工学域	四年	永田 光来
工学域	四年	松岡 諒
工学研究科	博士前期課程二年	太田 雄士
工学研究科	博士前期課程二年	中江 聡志
工学研究科	博士前期課程二年	中村 樹
工学研究科	博士前期課程二年	板垣 賢広
工学研究科	博士前期課程二年	寺崎 保裕
工学研究科	博士前期課程二年	杉田 椋哉
工学研究科	博士前期課程二年	岡田 淳之
工学研究科	博士前期課程二年	内田 享佑
工学研究科	博士前期課程二年	岡村 拓海
工学研究科	博士前期課程二年	巖 元志
工学研究科	博士前期課程二年	今吉 優輔
工学研究科	博士前期課程二年	足立 壮太
工学研究科	博士前期課程二年	角川 直広
工学研究科	博士前期課程二年	胡 誉騰
工学研究科	博士前期課程二年	上野 楓
工学研究科	博士前期課程二年	中島 悠佑
工学研究科	博士前期課程二年	大野 友彰
工学研究科	博士前期課程二年	塩谷 秀登
工学研究科	博士前期課程二年	坂川 翔祐
工学研究科	博士前期課程二年	木下 貴登
工学研究科	博士前期課程二年	中尾 芽吹
工学研究科	博士前期課程二年	真下 理彩
生命環境科学研究科	博士前期課程二年	西川 綾花
理学系研究科	博士前期課程二年	西台 悠二
理学系研究科	博士前期課程二年	小前 奏明
理学系研究科	博士前期課程二年	濱元 亮佑
理学系研究科	博士前期課程二年	叶田 雅俊
理学系研究科	博士前期課程二年	森本 健太
理学系研究科	博士後期課程二年	林 康太
理学系研究科	博士後期課程三年	中谷 勇登
人間社会システム科学研究科	博士前期課程二年	國近 力樹
看護学研究科	博士前期課程二年	古木 秀明

2022年度 研究業績優秀表彰

【 大阪市立大学 】

所 属	学 年（卒業生は在籍年次）	氏 名
経営学研究科	前期博士課程二年	鄭 民雋
経済学研究科	前期博士課程二年	柴田 玲奈
法学研究科	前期博士課程二年	楊 建陽
文学研究科	前期博士課程二年	曹 知言
理学研究科	前期博士課程二年	紀太 悠
工学研究科	前期博士課程二年	中村 太一
医学研究科	修士課程	松本 優希
看護学研究科	前期博士課程二年	宮原 真二
生活科学研究科	前期博士課程二年	竹田 幸乃
都市経営研究科	博士前期課程	中市 里実

【 大阪府立大学 】

所 属	学 年（卒業生は在籍年次）	氏 名
工学研究科	博士前期課程二年	今吉 優輔
生命環境科学研究科	博士前期課程二年	吉岡 紗穂
理学系研究科	博士前期課程二年	小西 亜侑
経済学研究科	博士前期課程二年	徐 慧
人間社会システム科学研究科	博士前期課程二年	山本 真里奈
看護学研究科	博士前期課程二年	小磯 崇司
総合リハビリテーション学研究科	博士前期課程二年	伊藤 菜名

2022年度 学業成績優秀賞

【 大阪市立大学 四年 】

学部	学科	氏名
商学部	商学科	村上 空
経済学部	経済学科	池田 響樹
法学部	法学科	竹村 真実子
文学部	言語文化学科	谷口 太一
理学部	地球学科	東 知希
工学部	都市学科	山田 蓮
医学部	医学科	中村 敦輝
医学部	看護学科	川田 真由
生活科学部	人間福祉学科	湯原 歩乃美

2022年度 白鷺賞

【 大阪府立大学 四年 】

学域	学類	氏名
現代システム科学域	知識情報システム学類	日紫喜 暁維
現代システム科学域	環境システム学類	田中 あみ
現代システム科学域	環境システム学類	稲葉 百香
現代システム科学域	環境システム学類	佐藤 優生
現代システム科学域	マネジメント学類	浅場 智輝
現代システム科学域	マネジメント学類	角地 陵
工学域	電気電子系学類	宮田 優一
工学域	電気電子系学類	野々村 祐人
工学域	電気電子系学類	不老 美月
工学域	物質化学系学類	延本 美優
工学域	物質化学系学類	大橋 歩実
工学域	物質化学系学類	越知 明日香
工学域	機械系学類	山本 悠登
工学域	機械系学類	幅田 真史
工学域	機械系学類	西部 諒
生命環境科学域	獣医学類	下田 真暉
生命環境科学域	応用生命科学類	江川 綾乃
生命環境科学域	応用生命科学類	吉田 麟太郎
生命環境科学域	緑地環境科学類	水野 謙吾
生命環境科学域	理学類	大住 彩映子
生命環境科学域	理学類	尾田 竜太郎
生命環境科学域	理学類	山本 紳二
生命環境科学域	理学類	三浦 千春
地域保健学域	看護学類	塩見 真由
地域保健学域	総合リハビリテーション学類	片山 帆乃夏
地域保健学域	総合リハビリテーション学類	藤澤 実李
地域保健学域	総合リハビリテーション学類	井手 美苗
地域保健学域	教育福祉学類	増尾 優輝